

平成25年度 第5回 九州工業大学 経営協議会 議事次第

日 時 平成26年1月16日(木) 13:00~15:00
場 所 百周年中村記念館 特別会議室

開 会

- 議長挨拶
- 欠席者等の案内
- 平成25年度第3回議事要旨の確認
- 平成25年度第4回持ち回り会議の審議結果

〔審議事項〕

- (1) 学則の改正(大学院改組関連等)について
- (2) 中期計画の修正案について

〔報告事項〕

- (1) 国立大学改革プランについて
- (2) 就業規則の制定及び改正について
- (3) 平成26年度運営費交付金及び平成25年度補正予算について

〔その他〕

議長謝辞

閉 会

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成25年度第5回）

1. 日 時 平成26年1月16日（月）13:00～14:45
2. 場 所 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. 出席者 工藤委員，高原委員，豊川委員，濱田委員（五十音順）
学長，理事（評価・総務担当），理事（教育・情報担当），
理事（研究・産学連携担当），理事（労務・財務担当），
副学長（経営戦略担当），工学研究院長，情報工学研究院長，
生命体工学研究科長
4. 列席者 監事（教育・研究担当），監事（経営・財務担当）
副学長（学生担当），副学長（国際担当），副学長（入試担当），
学長特別補佐（広報担当），学長特別補佐（評価担当）

5. 議長挨拶

議長から，開会にあたり挨拶があった。

6. 会議成立

構成員18名のところ，13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

7. 議事録の確認

平成25年度第3回経営協議会（平成25年9月9日）の議事要旨についての確認について説明があり，了承された。

また，平成25年度第4回持ち回り会議の審議結果について説明があった。

8. 審議事項

（1）学則の改正（大学院改組関連等）について

学長より，大学院改組等に伴う学則の改正について説明があり，改正案に対し次のとおり意見等があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 専攻ごとの定員数が細かく分かれているのは，研究室に関係するのか。

△： 学生数は教育課程により設置基準に基づいて決められることとなり，それに
応じて教員の定員が決められる。また，教員が専攻間を異動できるようにバラ
ンスを取っている。

○： 学則第2条の工学部及び情報工学部の目的について，同じような言葉で表現
の違う書き方をしているため，共通する部分については第1条の大学の目的の
中に盛り込んではどうか。

△： ご指摘のとおり大学として統一された目的を検討していきたい。

○： 工学部と情報工学部では学部の質が違うため，統一するのは難しいのではな
いか。

△： 学部によっては目的も違ってくるため，専門性が異なってくるかと思われる。

工学部は「ものづくり」、情報工学部は「情報」を明確に切り分け、その他の基礎的部分や国際性などを統一していきたい。

以上の意見等を踏まえて、今回は修正が間に合わないが、今後の大学改革の動きを見ながら目的の見直しを図っていきたい旨の説明があり、審議の結果、了承された。

(2) 中期計画の修正案について

学長より、中期計画を修正することとなった国立大学改革強化推進補助金、及び補助金の採択に伴う本学の改革概要について説明があり、続いて理事(評価・総務担当)より、中期計画の修正案について説明が行われ、次のとおり意見等があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

- ： コンピテンシーとは、圧倒的に上回る人材の育成という意味になるかと思うが、学生全員を圧倒的な人材に育てるということは無理なので、優れた学生だけを育成していくことになると思うが、その点はどのように考えか。
- △： 教育の中でのコンピテンシーというのは、専門的な教育が受けられるようにコミュニケーション力，自立する力，自分で学習する力などを育てるための知識やスキルをうまく活用する能力のことを定義している。今後はコンピテンシーのレベルを3つの区分に設定し，レベルに応じた教育を実施していく予定である。
- △： 国立大学改革プランにおいては，第2期の残り2年間で学生全体の底上げを行うべく教育基盤の基礎作りを行い，第3期にグローバル・コンピテンシーを育成すべく教育プログラムを実行していく予定である。その中でコアコンピテンシーのような優秀な学生をどれだけ輩出するかになってくるかと考える。
- ： 英語やカタカナで表現している言葉が多く，学内の教職員が統一的な理解をしているのか疑問を感じるため，日本語で書くことにより意識の共通化が図れるのではないか。

また，サーキットのところで「J A B E Eを基盤とし」と書かれているが，J A B E Eは組織であるため，そのまま用いるのではなく，大学の独自性を活かしてもう少し膨らました表現にしてはどうか。

最後に，中期計画の中で「教育プログラムを開発し試行する。」と書かれているが，これが実施される学生にとっては「試行」ではないため，「実施」などに変更してはどうか。

- △： コンピテンシーなどの言葉は，日本語に適切な表現がなかったため，敢えてカタカナ等で表現しており，今後は学内での理解を深めていきたいと考えている。これまでの教育活動において，夢プラン・M I L A i S (ミライズ)・P B Lなどを基本的な要素として，コンピテンシーの理解をしてもらっているため，今後はグローバル・コンピテンシーとして1つのパッケージになった統一的な理解を学内に広めていきたい。

J A B E Eについては仕組みだと考えており，教育の質の保証を保ちつつ，コンピテンシーである教育の中身を取り入れていきたい。

最後のご意見については，「実施」とすると第2期までに実行しなければいけ

ないと考えたため、「試行」という表現を用いたものである。

○： 計画を段階的に実行していくという意味か。

△： そういうことになる。

○： J A B E E の仕組みを取り入れることは理解したが、あくまで J A B E E は組織であるため文章としてはおかしいように考える。大学の取り組みは非常に良いので、あまり J A B E E に拘らなくても良いのではないか。

△： グローバル人財育成の取り組みとしては、J A B E E はより良い仕組みであると考えため、表現を工夫していきたい。

以上の意見等を踏まえて、中期計画案を修正していきたい旨の説明があり、審議の結果、了承された。

9. 報告事項

(1) 国立大学改革プランについて

学長より、文部科学省より11月26日に公表された国立大学改革プランの内容について報告があった。

(2) 就業規則の制定及び改正について

理事（労務・財務担当）より、人事院勧告等に基づく早期退職募集制度の実施、55歳を超える職員の昇給制度の見直し、現給保障の廃止について就業規則を制定及び改正した旨、報告があった。

(3) 平成26年度運営費交付金及び平成25年度補正予算について

理事（労務・財務担当）より、平成26年度運営費交付金の予算概要及び本学の予算内示、並びに平成25年度の補正予算について報告があった。

10. その他

学長より、次回の開催日程について平成26年3月17日（月）に戸畑キャンパスで開催する旨の報告があった。